

総合特別区域の進捗に係る評価
〔農林水産業分野〕

令和2年度

千年の草原の継承と創造的活用総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4+2.8)/2=3.4$

3.4

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	①草原管理面積、②野焼き再開牧野数	147%	5
2	牛馬の放牧頭数<定性的評価>	0%	-
3	①観光入り込み総数、②阿蘇地域の宿泊客数<定性的評価>	0%	-
4	あか牛肉料理認定店数	67%	3
5	草原体験利用者数<定性的評価>	0%	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 4$

4.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

2.8

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(2.7+3+3.3)/3=3$

3.0

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.7

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.3

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.0

- ・自然災害とコロナ禍のため、ねらいとする草原体験ツアー等が実施が難しい状況にあり、実績があがっていないが、取り組みの方向性に問題はないと考える。
- ・草原管理面積を維持することが目標だが、継続的に減少している。要因分析と対策が必要と思われる。
- ・評価指標(3)－①「観光入り込み総数」は、進捗度は低下しているが、実績値は増加しており、評価指標(3)－②「阿蘇地域の宿泊客数」及び評価指標(5)「草原体験利用者数」も増加しており、全体として望ましい結果になったものと評価できる。
- ・評価指標(4)「あか牛肉料理認定店数」は、実績値、進捗度も大きく減少しているが、分析内容を見ると、そもそも前年度までの実績値が、実態と乖離していたものと判断せざるをえない。
- ・新型コロナのショックがいつまで続くのかは予断できないが、アフター・コロナの状況に向けて、供給側としての着実な準備を行うことが重要である。また、自然資源や農業資源の特長である屋外での活動に注目することでコロナ下での活動を見いだすことができるかもしれない。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.0

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.4+3+3 \times 2) \div 4=3.1$

3.1

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。